

農薬の上手な使い方

平成18年5月29日から「残留農薬等に関するポジティブリスト制度」が施行されました。今後は農薬の残留が法律で厳しく規制されます。農薬の適正使用はもちろんですが、今まで以上に散布の方法に気をつけ、農薬が飛散しないように注意することが必要です。

農薬散布時はここに注意しよう

1 生産者同士や地域で話し合いを

飛散防止対策は、生産者が個別で対応するだけでは限界があります。「散布する農薬を見直す」「散布する日をお互いに確認する」「隣接する圃場では作物を調整する」など、生産者同士が連携し、地域全体で取り組むことが大切です。

2 飛散を防ぐための各種対策

●風の強い日は散布を控える

散布した農薬は風によって飛散します。そのため、風のない日や風の弱い時間帯を選んで散布しましょう。また、散布中でも風向きや風速は変化するので、常に注意が必要です。

●作物に近づけて散布を

対象となる作物は離れたところから散布すると、農薬が飛散しやすくなります。なるべく対象になる作物に近い位置から散布します。

●散布の方向に注意

圃場の外側から内側へ向かって散布しましょう。高さのある作物などは、枝葉のない方向へ飛ばさないように注意します。

●散布機の圧力を上げすぎない

圧力が高いと、細かい粒子が発生して飛散しやすくなります。飛散の範囲が広がらないように、散布機の圧力は低めに設定します。

3 農薬散布前に必ず確認しましょう

農薬飛散防止のために

チェック項目

対策

立地条件・散布条件の確認!

- 周りは他の作物を栽培している圃場ですか?
- 近くに貯水池や川などの水系はありませんか?
- 風の強さはどうですか?

作物や収穫日を確認

散布方向や風向きに気をつける
風が強いときは散布をしない

近接作物の確認!

- 隣接した圃場に収穫間近の他の作物はありませんか?
- 遮蔽シート・ネットなどは使っていますか?

散布日を変える等調整する

きちっと張られているか確認

散布器具の確認!

- 散布器具のノズルは飛散低減タイプですか?
- 散布圧力や風量は調節しましたか?

作物に合わせて選ぶ

圧力を上げすぎず、風量は絞る

散布方法の確認!

- 調整した散布液は適切な量ですか?
- 作物のない方向に散布はしていませんか?
- 散布器具は作物に近づけて散布していますか?

必要以上の散布は避ける

ノズルの方向に注意する
できるだけ作物に近づける

農薬適正使用のために

チェック項目

対策

- 散布する作物は農薬ラベルの適用作物に入っていますか?
- 農薬の定められた使用方法を守っていますか?
- 使用する予定の防除機・器具に不具合はありませんか?
- 水田での散布では圃場外に流出しないようにしましたか?
- 農薬に触れた手で収穫物を扱っていませんか?
- 散布記録を残しましたか?

適用のない作物には使用しない

使用量・希釈倍数・使用時期・成分ごとの総使用回数は必ず守る

日ごろの管理を徹底し、使用後は洗浄をする

止め水をしっかりする

農薬を使ったあとは、手を洗う

圃場・作物ごとに、散布月日・農薬名・散布濃度・量を必ず

記録する

残留基準値を超える農薬が農産物から検出された場合、安全性が損なわれたということで、流通禁止や回収、損害賠償などの措置がとられます。ひいては産地のイメージダウンにもなりかねません。

農産物の安全・安心を確保するためにも、農薬は決められた使用方法を守って正しく使いましょう。また、散布後は記録をきちんと残しましょう。

梅雨対策(水稻・丹波黒大豆)

梅雨期の高温多湿な気候は、成長期の農作物に病気や害虫をもたらす原因となります。水管理を徹底してよりよい農作物作りを目指しましょう。

水稻

稲はこれから中干しの時期を迎えます。今後の水稻の健全育成のためにも必ず行いましょう。

中干しの目的は

- ①土の中に空気を入れて強い根を作る
 - ②無効分けつや過繁茂の防止
 - ③下位関節間の伸びすぎを抑えて倒伏を防止する
 - ④圃場内の管理作業がしやすくなる
- ことです。

中干し開始目安

中干しは、一株の茎数が20本程度になればすみやかに実施してください。



中干しの期間

期間の目安は4~10日とし、田表面に小さな亀裂が入る程度。干し過ぎて大きな亀裂が入ると根を傷めてしまうので注意しましょう。



中干しもやりすぎると生育に影響を与えるので、品質向上のためにも遅れないよう適期に、確実に中干しを行いましょう。

丹波黒大豆

梅雨時期の排水対策が今後の生育(収穫)に大きく影響を及ぼします。生育初期に排水管理をおろそかにすると湿害が起こり、茎疫病や黒根腐れ病等の病害、根の伸長停止などが発生しやすくなり、今後の生育に大きな影響を与えます。この時期は圃場に水を停滞させることなく、できるだけすみやかに排水するようにしてください。土を乾かすことが大切です。

対策

①溝をしっかりと通す

畝間に水が溜まると、根が酸素を吸収できず、根の伸長が抑えられてしまいます。過剰な水がすみやかに排水できるよう溝をしっかりと通しましょう。

②畝を高くする

排水の悪いところは高畝とし、周辺の水田から水の流入のないようにしてください。適度な水分を保ちながら乾燥状態となる高畝は、過湿、乾燥の両方に有効な対策です。

